

第6学年 外国語科 “Unit3 Let's go to Italy.” 「話すこと[やり取り]」

やり取りを通して、相手に分かりやすく伝える力を育てる

二本松南小学校 菅野 香代子

I 単元構成の工夫

本単元で児童は、自分のことを伝え、相手のことをよく知るために、行ってみたいおすすめの国や地域とその理由について、短い話を聞いてその概要が分かったり、伝え合ったり、話したりする活動をする。そこで、単元のゴールを「旅行会社に行って自分の行きたい国のツアープランを作る」とし、単元全体の見通しをもって学習に取り組むことができるようする。必然性のある活動場面を設定し、必要な表現を理解したり、身につけたりして、自分の考えや気持ちを伝え合う力の向上を図りたい。

児童の実態

児童の多くは外国語科の学習に楽しんで取り組み、昨年度からの学習経験から、「伝えたい」「もっと話したい」という思いをもち、ALTや担任に英語での表現方法を積極的に質問し、表現しようとしている。一方で、恥ずかしさや照れ、自信のなさからなかなか声に出して表現するまでには至っていない児童もあり、個人差が大きい。

単元を通して育成したい子どもの姿

「おすすめの本のリーフレット」を作って友達に話したり、その理由を伝え合ったりする活動を通して、自分のことを伝え、相手のことをよく知り、互いに学び合うよさを実感する姿

「単元構成の工夫」における ○成果と●課題

- 必然性のある活動場面を設定したことで、目的意識をもち、単元を通して意欲的に取り組むことができた。
- 音→会話→コミュニケーション→広げるの流れで単元を実践した。徐々にハードルを上げて「やってみたい、話してみたい」と思えるような展開にすることで子どもたちは意欲的に取り組み、様々な国の言葉や文化を知りたいと意欲的に活動した。
- 児童がやり取りに必要な表現を理解したり、身につけたりできるようにするために、ALTとの連携を密にし、具体的に単元の流れを共有しておく必要がある。

学習計画（総時数 8 時間）

時	場面	学習活動（夢中になって学んでいる姿）	資質・能力
1	音に出会う	単元のゴールを知るとともに、世界の有名な建物や食べ物などについて言ったり、音声や映像から分かったことを発表したりする。	世界の有名な建物や食べ物などについて、短い話の概要を捉えようとしている。 (主)
2	Starting Out		～ is …, You can ～, It's ～ およびその関連語句などについて理解することができる。 (知・技)
3	会話に慣れる	「国」や「食べ物」の言い方を練習し、おすすめの本や地域と、その理由についてたずね合う。	Why do you like ～?, You can ～, It's ～ およびその関連語句などについて理解することができる。 (知・技)
4	Your Turn	社会科の地図帳やタブレットなどを使って、行ってみたいおすすめの本の有名なものを調べ、おすすめの本の理由をたずね合う。	行ってみたいおすすめの本や地域と、その理由について、お互いの考えや気持ちを表すことができる。 (思・判・表)
5・6 (本時)	コミュニケーションを楽しむ	「おすすめの本のリーフレット」を作って、その本でしたいことを伝えながらやり取りをする。	行ってみたいおすすめの本や地域とそこでしたいことについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちを含め伝え合うことができる。 (思・判・表)
7	Enjoy Communication	「自分の行きたい本のツアープラン」を作るために、行きたい本でできることを発表したりたずねたりする。	行ってみたいおすすめの本や地域とその理由について、簡単な語句や表現を用いて、お互いの考えや気持ちを話すことができる。 (思・判・表)
8	世界を広げる Over the Horizon	知っている日本の世界遺産や、行ってみたい世界遺産について発表する。	世界遺産について、簡単な語句や表現を用いて、お互いの考えや気持ちを伝え合おうとしている。(主)

II コーディネートの工夫

<本時のねらい> 行ってみたいおすすめの家や地域とそこでしたいことについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちを伝え合うことができる。

	学習活動・内容(T主な発問C児童の反応)	<コーディネートの実際>	<コーディネートの改善>
課題設定	<p>1 あいさつをする。 2 本時のめあてをとらえる。 C: 友達の言ったことについて、リアクションもしたい。</p> <p>行ってみたい国でしたいことを伝えるために、どんなやり取りをすればよいただろう。</p>	<p>3 教師とALTのモデル会話を見る。 T: 今日は、こんなやり取りをしたいんです。</p> <p>教師とALTのモデル会話のあと、繰り返し練習しやり取りをしたので、自信をもって取り組むことができたが、前時までに学習したことを、その場に合わせ分かりやすく適切に使うという場面設定ではなかった。</p>	<p>3 行きたい国インタビュー①を行う。 T: 前の時間までに学習した表現を使って、インタビューをしてみよう。 T: うまく伝えられましたか。どうすれば分かりやすく伝えられるかな。 C: クリア ボイスで言うといい。 C: 相手の目を見て言うといい。 C: 相づちを打つといい。</p> <p>相手に分かりやすく伝えるための視点を子どもたちと考え、次のやり取りに生かすことができるようにする。</p>
課題解決	<p>3 教師とALTのモデル会話を見る。</p> <p>T・A: Hello. T: Where do you want to go? A: I want to go to Italy. T: What do you want to do? A: I want to eat pizza. I want to see the Colosseum. T・A: Thank you. Bye.</p> <p>4 行きたい国インタビューをする。 T: 友達とのやり取りで、よかったことはありましたか。 C: リアクションをしていた。 C: 聞き返していた。 C: はっきり言っていた。</p>	<p>4 行きたい国インタビューをする。 T: 友達のやり取りの様子をみてみよう。どんないいところがあったかな。 C: It's delicious. と付け加えていた。 C: クリア ボイスで言っていた。 T: では、参考にしてもう一度やり取りしてみよう。</p> <p>やり取りの様子を動画に撮影したものをテレビに投影し、リアクションや相づちを付け加えたやり取りを確認した。友達のよさに気づき、自分にも取り入れる姿が見られた。</p>	<p>4 会話の質・量を高めた行きたい国インタビュー②を行う。 T: ○○さんのやり取りを見よう。 T: よかったところを参考に、みんなもやり取りしよう。</p> <p>友達の表現のよさを取り入れ、自分の表現を修正・付加・発展させることができるようにする。</p>
振り返り	<p>5 本時のまとめをする。 ・まとめ</p> <p>What do you want to do? I want to see (eat) ○○.</p> <p>・振り返りカードの記入</p>	<p>5 本時のまとめをする。 T: カードに今日の振り返りをしましょう。 C: 友達のおすすめの家でしたいことが分かった。</p> <p>振り返りが、やり取りの感想や反省の言葉になっていた。</p>	<p>5 本時のまとめをする。 T: 「何がきっかけで自分の表現が変わったか」「何が分かったか」「次はどうなりたいか」など、ふり返って書こう。 T: 友達の「振り返り」を見に行き、いいところやまねしたところに付箋を貼ろう。 C: 「次は○○さんのように書こう！」</p>
<p>「コーディネートの工夫」における ○成果と●課題</p> <p>○ 他のペアのやり取りを確認することにより、自分たちのやり取りと比較し、客観的にふり返り、よりよい「やり取り」を考えるきっかけになった。</p> <p>● 本時の振り返りの表現が、次時のめあてにつながるようにするために、学びのねらいに対する振り返りを書くことができるようにする。そのために、児童に振り返りの視点を示し、焦点化して書くことができるようにしていく必要がある。</p>			